

# 平成29年度 学校評価アンケート結果報告

本校では、生徒の学校生活をより充実したものにするとともに、地域に愛される学校づくりを推進している。これらを実現するための取り組みの一環として実施している学校評価アンケートも今年度で4年目となった。アンケートの対象は、生徒、教職員、そして保護者とした。また、具体的な重点目標を掲げ、取り組むべき方向性を明確にし、教職員の指導に役立てるようにした。

質問に対する回答選択肢において、「そう思う」「ややそう思う」を肯定的回答とした。その結果、ほとんどの質問に対して、肯定的回答が75%を超える高い評価となった。また、生徒のアンケート結果に対して3年間の推移を調べた。その結果、アンケート実施につれて肯定的回答の割合が大きくなる傾向を示した。しかしながら、改善の必要な項目もあり、これらの結果をより良い学校づくりへ活かしていきたい。

今後も学校評価アンケートを継続してまいります。益々のご協力を賜りますようお願いいたします。

## 1. 重点目標

教職員の取り組むべき方向性を明確にするために重点目標を以下のように定めた。

1. 基本的な生活習慣および生活態度の向上  
(あいさつ、掃除、言葉づかい、身だしなみなど)
2. 学力向上に向けた授業の「質」の向上
3. 生徒の自発的学習への意識の向上
4. 健康で充実した学校生活のための環境づくり
5. 生徒および保護者が納得できる進路保障の取り組み
6. 教職員間および教職員と保護者間の連携

## 2. アンケート結果

アンケートは、教育活動全般、学習指導、生徒指導、進路指導の4分野から構成されている。質問に対する回答の選択肢は、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階とした。それぞれの質問に対して、生徒、教職員、保護者の結果と生徒の結果における3年間の推移を示した。

結果を示したグラフ中の数値は、回答数を分母とした百分率で求め、小数点1位を四捨五入した値である。

## 2. 1. 回答数および回収率

アンケートを配布した人数は、生徒581名、教職員60名、保護者581名であった。保護者に関しては、兄弟姉妹の存在は考慮せず、生徒数と同人数とした。アンケートの回答数は、生徒581名、教職員53名、保護者507名であり、回収率は、生徒99%、教職員88%、保護者83%であった。

## 2. 2. 生徒、教職員、保護者の結果

生徒、教職員、保護者のアンケート結果は、[別紙\(表1\)](#)に示した。

## 2. 3. 生徒へのアンケートに対する回答の3年間推移

生徒へのアンケートに対する回答の3年間推移の結果は、[別紙\(表2\)](#)に示した。

## 3. 重点目標とアンケートの関連性

重点目標と関連する質問番号の関係を以下の表3にまとめた。

| 重点目標<br>番号 | 関連する質問番号   |                     |                  |          |
|------------|------------|---------------------|------------------|----------|
|            | 教育活動<br>全般 | 学習<br>指導            | 生徒<br>指導         | 進路指<br>導 |
| 1          | 2, 3, 6    |                     | 1, 2, 3, 4       |          |
| 2          |            | 1, 2, 3,<br>4, 5, 6 |                  |          |
| 3          | 6          | 5, 7, 8             |                  |          |
| 4          | 1, 4, 5    |                     | 5, 6, 7, 8,<br>9 |          |
| 5          |            |                     |                  | 1, 2, 3  |
| 6          | 7, 8       | 9                   | 10               |          |

表 3. それぞれの重点目標番号に関連する質問番号

#### 4. 考察および今後の改善方策

重点目標 1 である、“基本的な生活習慣および生活態度の向上”は、生徒が社会において活躍するためには必ず身に付けなければならないものであり、ホームルームにおける担任指導をはじめ、様々な場面で多くの教職員が意識して指導している。その結果、この重点目標に関連した質問に対する回答は、ほとんどの質問に対して肯定的回答となっており、普段からの指導がよい結果となってあらわれている。この結果は、本校の生徒が落ち着いた学校生活を過ごしていることを示している。ただし、清掃に関する質問（教育活動全般の質問 3）のように教職員の結果が低くなっている項目もある。掃除の方法など教職員が実践しながら具体的な指導を行うなど、教職員が納得できる結果が得られるように指導方法の改善などの継続した指導が必要である。

重点目標 2 である“学力向上に向けた授業の「質」の向上”は、落ち着いた学校生活ができる環境があつて初めて実行できる内容である。重点目標 1 に対して良好な結果が得られている本校にとって、これから肯定的回答の割合を伸ばしたい分野である。結果は生徒と教職員の結果に差がみられ、共通理解が得られていない状況である。まずは、生徒の理解度を把握するこ

と、そして、生徒が習得すべきレベルを落とすことなく指導方法の工夫を行っていく努力が必要であろう。一方、生徒の 3 年間の結果推移をみると、肯定的結果の割合は徐々に増加している。基礎学力の向上の担当教員による放課後の指導等の成果が現れていると思われる。この傾向が続くように今後も取り組んでいきたい。質問の内容では、学習指導の分野の質問 5 である、“授業は、わかりやすく、理解できていると思いますか”は、“わかりやすい”と“理解できている”の異なる内容が含まれているため適切な質問と言えないとの指摘もあり、来年度はそれぞれを異なる質問として作成したい。

重点目標 3 である、“生徒の自発的学習への意識の向上”に関しては、朝読書に関する質問（学習指導の分野の質問 8）の回答結果からわかるように、今後力を入れて取り組むべき目標である。学習に集中できる環境づくり（学習指導分野の質問 7）も含めて、指導を強化していきたい。

重点目標 4 である、“健康で充実した学校生活のための環境づくり”に関しては、概ね良好結果が得られている。ただし、部活動に関する質問（生徒指導分野の質問 8）では、部活に入部せず大学進学を目指している普通科特進コースの生徒の意見を反映できていないため、部活以外で頑張っている生徒の意見を反映できる質問の改善が必要である。

重点目標 5 である、“生徒および保護者が納得できる進路保障の取り組み”に関する質問に対しては、肯定的回答が得られている。しかしながら、生徒の肯定的回答の割合が教職員や保護者の回答に比べて低くなっている。この理由のひとつは、1 年生の結果が他学年に比べて低くなっているためである。アンケート実施時期が 7 月であるため、1 年生にとっては早すぎるとの考えもあるが、1 年生のからの計画的な進路指導を充実させる必要がある。

重点目標 6 である、“教員間および教員と保護者間の連携”に関しては、良好な結果が得られている。本校の教育方法に対する保護者様の理解と協力のおかげであると思われる。ただし、悪天候による休校等の連絡方法の改善など保護者様からの要望も強く、今後善処して行かなければならない。

## 5. おわりに

生徒、教職員、保護者によるアンケート結果に関しては、全般的に生徒と保護者の評価より教職員の評価が低くなる傾向があった。これは、生徒を伸ばそうとする教職員の思いを反映していると考えられ、本校が更に向上するためには必要な要素である。教職員の求める生徒像へ近づけるように、今後取り組んでいきたい。また、生徒へのアンケート結果の3年間推移に関しては、アンケートの度に肯定的回答の割合が大きくなる傾向がみられた。この結果は本校職員として喜ばしいことであり、次回の学校評価アンケートにおいて更に高い評価を受けるように取り組んでいきたい。

学校評価アンケートを実施するにあたり、保護者の皆様には、ご協力を賜りありがとうございました。地域から愛される学校を目指し、有明高校は成長し続けてまいります。今後とも、ご支援とご協力をお願いします。